

北陸石仏の会々報

第 31 号
平成17年10月1日発行

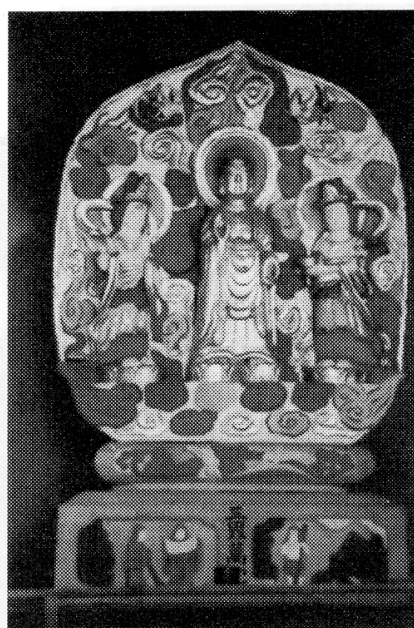
編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会 (日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二一二七七二
振替 〇〇七四〇一三一一九七四

石仏と辻堂の習俗

尾田武雄

石仏探訪をしていると、旧道に沿った村里近くに、吹き抜け、あるいは、三方を板で囲いをした簡素な堂内に石仏や木仏を安置した小堂に出会うことがよくある。村人達の社交・親睦のために利用されたり、講中(信仰する人々の集まり)で読経や供養が行われたりしてきた。また、道行く人々の休憩場所となったり、旅人を接待したりして、寺社ほど格式ばることのない日常の信仰の場となっていた。富山県内でも東部にそれらを散見することができる。

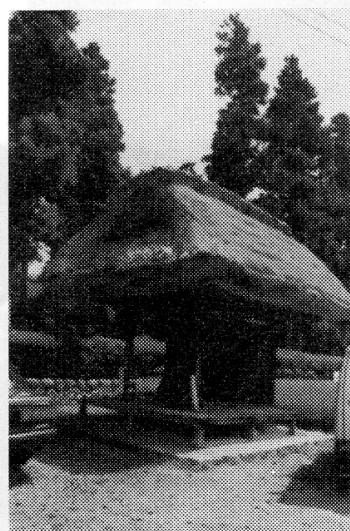
現在石仏調査を行なっている富山市婦中町音川の大瀬谷や葎原、東谷等でもそれらを確認することができた。そういえば、大沢野町坂本の辻堂は阿弥陀三尊を安置し、茅葺きの辻堂が印象に残っている。また立山町にも何箇所があった。これらの辻堂を、その名称・所在地・堂周辺の状況・堂の構成・堂に祀られるもの・堂の由来・堂にまつわる伝説・堂に関わる年中行事・堂の日常的な利用の仕方・その他等々を調査してみると楽しいのではないかと思われる。ただ単に石仏調査だけでなく、このようなお堂や辻堂に目を向けると石仏研究も深くなるのではないかと思われる。



富山市坂本



婦中町東谷



富山市坂本

第32回例会・報告

城下町金沢の石仏めぐり

会員の滝本靖士さんのご案内で城下町金沢の寺院や墓地の石仏を巡った。参加人数も多く盛会であった。曹洞宗月心寺は滝本さんの親戚にあたるという事で、懇切丁寧に説明をしていた。次に日蓮宗真成寺の鬼子母神堂の三猿、国指定重要民俗文化財の「奉納産育信仰資料」などを拝見し、住職からは法話なども拝聴した。浄土宗心蓮社門前の文政九年の徳本名号塔を拝見していたところへ、石川県の考古学者芝田悟氏が来寺され、この名号塔について詳しい説明をお聞きした。氏はこの例会にわざわざ時間を合わされたのであり、感謝を申し上げたい。

その後常盤滝不動、大桑不動と続くのだが、大桑不動のお堂の中には古様な六地藏があり、近世初期か中世にさかのぼるものではないかと推察できる。最後に加賀藩主の歴代が眠る墓地を巡った。真宗の強い風土であるが、加賀藩の武士たちは曹洞宗や日蓮宗・浄土宗などを奉じていたので、それらに関わる石仏が多いのに驚いた。

例会参加者

加藤 永子	中嶋 照子	山崎 敏子	柳沢 栄司
小西 淑子	北村 市朗	岩城 義弘	尾田 和子
滝本 靖士	小竹 一夫	飯田トシ子	大野 猪策
佐伯 安一	藤田 正時	平井 一雄	川辺 佳美
平野 重二	坂本 光作	西村多恵子	大澤 晴美
南部 金紀	尾田 武雄	21名	



芝田氏の説明 本洲市山宮

第33回例会のご案内

一乗谷・朝倉氏遺跡の石仏めぐり

◎月 日 平成十七年十一月十三日(日)

◎集 合 JR富山駅北口 午前七時

JR砺波駅南口 午前七時四〇分

JR金沢駅西口 午前八時三〇分

JR福井駅(裏)東口 午前九時三〇分

◎会 費 五〇〇〇円

◎申し込み 次のことを記入の上、葉書でご連絡ください

住所・氏名・電話番号・集合場所 友人参加も

お受けします

よろしければ携帯番号も

◎申し込み先

千九三九一―一三一五

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

◎締切り 平成十七年十一月八日

◎昼食は各自持参してください

*見学先

福井県 一乗谷・朝倉氏遺跡の石仏めぐり

平成六年九月十八日第八回の例会として、一乗谷の石仏巡りを実施し四十八名の出席で盛会でした。今回は石仏・石塔の研修は勿論ですが、昨年の福井大水害で大被害を受けた一乗谷の資料館をはじめ、庭園、復元された武家屋敷、町屋も完全に復旧しました。昭和四十六年より発掘調査が続ぎ、国の特別史跡と遺跡内にある四つの庭園は国の特別名勝となっています。今尚続くすばらしい一乗谷の姿を是非研修して戴き度いと思えます。

《石仏紹介》18

【弘法大師由来】

柳澤 榮 司

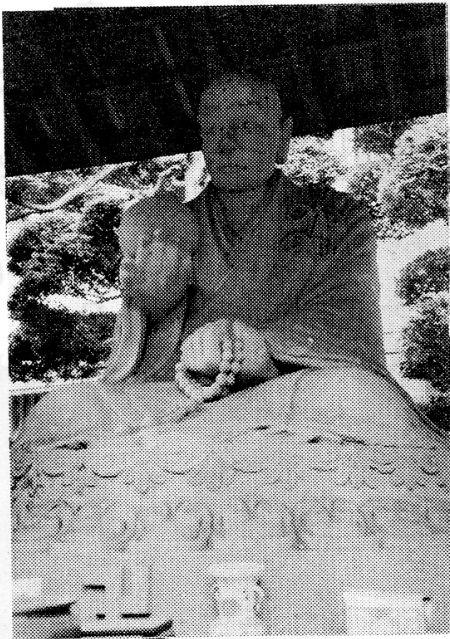
大正十年から十三年にかけて、当時の大同電力(現在関西電力)が木曾川に我が国で初めてのダムを造り、発電を行なった。当時の金で貳仟萬円を費やして完成し、ここに人工ダム湖恵那峡の誕生となるわけである。

この恵那峡の取付道路に、奉行橋の建設工事が始まり、工事の請負人 島中藤太郎が、工事の安全を祈願して寄進されたものである。

この外に恵那峡には、ダム工事の犠牲になった人々の霊を慰めるために寄進された、弘法大師像や観音像があり、その後五十余年の歳月に、多くのものは原型を失ったが、幸いにもこの像は往時のまま今日に至ったものである。作者は福崎日精 福崎月精 両氏である。

(註) 弘法大師は、右手に、五鈷杵を持つのが通例であるが、これは地藏菩薩の持つ、宝珠を持っている珍しい像である。

工事の安全と犠牲者の霊を慰めるために、地藏菩薩の功德を合わせて、考えられたものである。



(撮影・柳澤榮司)

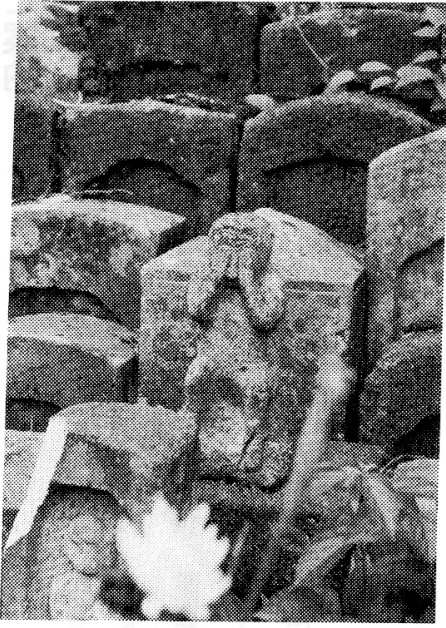
石仏の周辺の調査雑感

尾田 武雄

石仏研究は古代から中世にかけての古い優作の石造美術は、多くの先学によって研究がなされてきた。しかし近世や近代の石仏に関しては、あまり関心が向けられなかった。民間信仰の道祖神や田の神、山の神なども民俗学からも関心の外であり、研究されることが薄かった。ここ数年は全国的にも野の仏に對して目が向けられるようになった。自然の野にある石仏に、カメラを通してその造立とその心を知ろうとする行為であった。それが歴史とともに歩いた庶民の心に触れ、その時代背景を知る重要な石仏として、今注目されている。特に日本石仏協会の設立は一気に石仏研究が進んだといっても過言ではない。

さて、石仏とは「仏教で説かれた尊像」であるが、今後石仏研究の周辺である石神・盤持石・狛犬・墓石・鳥居・手水鉢など、人間が手を加えた石造物にも気を配りたいものである。また石仏の安置される祠や辻堂、石仏のある周辺の空間なども研究対象になりえるものと信じている。

深く石仏を研究されたい方には、日本石仏協会に入会されることお薦めいたしたい。



見ざる
金沢市妙国寺境内

お知らせ

・現在富山市婦中町音川の石仏調査に、平井一雄氏や尾田武雄氏が参加され、石仏のみならず辻堂にも関心を寄せられ調査されています。
・庄川町の石仏調査グループが今度石碑調査に着手されました。

日本石仏協会からのお知らせ

入会案内

*会員の特典

- (1) 日本石仏協会が主催する各種活動へ優先的に参加できます。
- (2) 日本石仏協会の機関紙「日本の石仏」が年4冊配布されます。
- (3) 日本石仏協会の機関紙及び協会の刊行物へ投稿することができません。
- (4) 日本石仏協会の保有する石仏関係の資料及び情報などを優先的に利用することができます。

*入会方法

- ・振込用紙に必要事項を記入の上、入会金二〇〇〇円
年会費八〇〇〇円(一月から十二月)を左記の口座へお振込みください。

・会員の登録は毎年一月に更新しますが、途中で入会の場合
は年度内既刊の機関誌をさかのぼって配布します。

*郵便振替口座 〇〇一八〇一―一五三二一四 日本石仏協会